

I G R 剤利用による ミダレカクモンハマキの防除

研究のねらい

マメコバチの普及に伴い、開花直前及び落花直後の殺虫剤使用が制限され、そのため葉や花を加害するミダレカクモンハマキの発生が大きな問題となった。そこで、マメコバチに影響のない I G R 剤（昆虫成長制御剤）を利用して、ミダレカクモンハマキを防除する方法を確立する。

研究の成果

I G R 剤はマメコバチに影響が少なく、ミダレカクモンハマキに対する防除効果が高い。ただし、I G R 剤は虫体内に十分取り込まれないと効果がないため、効果が発現するまである程度の期間が必要である。また、1回の散布だけでは効果が不十分であるため、開花直前及び落花直後の2回連続散布が必要である。

主要な試験データ

第1表 I G R 剤のミダレカクモンハマキに対する防除効果

薬 剤 名	希釈倍数	巻葉率	生存率	防除価
ア タ ブ ロ ン S C	4,000倍	10%	5%	80
カ ス ケ ード 乳 剤	4,000	7	4	84
ロ ム ダ ン フ ロ ア ブ ル	3,000	6	4	84
無 散 布		42	22	-

第2表 直接噴霧した場合のマメコバチに対する影響

薬 剤 名	希釈倍数	死虫率 (%)		
		1 日 後	2 日 後	3 日 後
ア タ ブ ロ ン S C	4,000倍	0	0	0
カ ス ケ ード 乳 剤	4,000	0	0	0
ロ ム ダ ン フ ロ ア ブ ル	3,000	0	0	0
ダ ー ズ バ ン 水 和 剤	1,000	100	-	-
展 着 剤 の み	-	0	0	0

発表資料

1. 病虫部（1994）. りんごのミダレカクモンハマキに対するクロルフルアズロンフロアブル（アタブロンSC）の使い方. 平成6年度指導奨励事項・指導参考資料：14 - 15.
2. 櫛田俊明（1994）. アタブロンSCによるミダレカクモンハマキの防除. りんご技術 44(3)：21 - 23.